

令和5年度 第1回ミライニ運営評価審議会の会議録報告

日時：令和5年7月21日（金） 午後2時～午後3時40分

場所：ミライニ3階研修室

出席：小野英男委員（会長）、矢野慶汰委員、西村まどか委員、石垣学委員、本間俊美委員、阿部純子委員、佐藤守委員、村形弘也委員

前田社会教育課長、小野社会教育課長補佐、眞嶋社会教育主査兼社会教育係長、菅原社会教育係調整主任

小林ミライニ所長兼酒田市立図書館長、佐藤ミライニ副所長兼酒田市立図書館副館長、角田ミライニチーフ（総務）、佐藤ミライニチーフ（観光）

欠席：西村修委員（副会長）、齋藤邦子委員

早退：矢野委員（～午後3時まで）

傍聴：2名

○新任委員委嘱の報告

阿部委員（会長）含め3名の委員が人事異動等により変更、委嘱の旨報告。

○開会要件の確認

酒田駅前交流拠点施設ミライニ設置管理条例施行規則第3条第2項の規定により、委員の2分の1以上の出席があるため、開会要件を満たすことを確認。

○会長の互選

自薦・他薦なく、事務局提案の小野英男委員が会長に就任。

1 開 会

2 課長あいさつ

3 新任委員・職員紹介

4 会長互選

5 報告・協議事項

(1) 酒田駅前交流拠点施設ミライニの運営状況について

- ① 図書館運営について 「令和5年度 図書館の概要」（説明 佐藤副所長）

主な意見・質問事項

- ・「まちづくり本気のワークショップ」について、どんなことをしているのか。(村形委員)
→令和4年度実績としてはエリアマネージャーということで3名の講師を招き研修会やセミナータイプのものを実施。雑誌『ソトコト』の編集長など著名な方を招き、まちづくりや、広場のある建物をどのように活用していくのかなどお話を伺った。また、下田孝志氏を招き、実践型のワークショップとして、まちづくり、自分たちがこんなプランニングができるという事について実践的におこなった。実はこちらは昨年度より以前から行っており、卒業生が実際に「光の湊イブニングコンサート」の実行委員会の立ち上げや、「ミライニシアター」の実行委員として活動している。(事務局)
- ・ 収支予算に光熱水費がないのは指定管理者ではなく市の直接支払いとなっているためか。(村形委員)
→そのとおりである。(事務局)
- ・ 雑誌スポンサー制度について、ミライニの注目度が高いのに令和4年度新規がないのはなぜか。(村形委員)
→ミライニに移転するというタイミング(令和3年度末)に新規スポンサーが大幅に増えたため。今年度、問合せ等もいただいており、新たに募集を行う予定である。(事務局)
- ・ 令和5年度の「管理運営上の目標」について、特に中央図書館では、「これまで施設に足を運ぶことの少なかった高校生や大学生、子育て中の若い世代、20代・30代のビジネスパーソンの利用を高めていく」とあるが、「令和5年度ミライニ事業内容」のどこに関連しているのか。(本間委員)
→若い世代というところでは芸工大原教授協力のもと、身近に感じるアートイベントを実施。SNSでの発信により感度の高い、図書館への関心が低かった方々が関心をもって来館。ミライニを知ってもらう上で大きなイベントだったとおもわれる。子育て世代にはミライニのあり方にも関わることだが、ゾーニングをしっかりとすることで賑やかなところと静かな場所を分け、森のゆりかごやおはなしの部屋などは静かにしなくてもよい空間として作られている。またブックスタートでもベビーハグを宣伝しており、公共施設になかなか居場所がなかった子連れも図書館には来やすくなったのではないかと。ベビーハグで知り合った母親同士がハグ友として新たなコミュニティを作り、ミライニでお話して帰るという様子も見受けられる。ビジネス界限についてはエリアマネジメント参加のやる気のある社会人や、ホテルに宿泊中のビジネス利用客による図書館利用が増えている。これはホテルのフロントによる声かけや、ミライニ側からのチラシ等の広報によるもの。コンセントがあるなどの情報提供で、2階席でパソコンを使用するなどしている。
高校生、大学生に対しては、高校図書委員会とコラボしポップの展示を企画。音楽イベントには図書館に初めて来たという声も聞かれた。2月のニャンニャンイベントも学校帰りの高校生がたくさんいたりした。楽しいイベントをすることで、図書館には来なかった

層がミライニには呼び込めているのではないか。(事務局)

- ・(R5についてとなるが) おはなし会と読み聞かせ講話について、修正とあるがどういった部分か。(本間委員)

→おはなし会は、ボランティアによる第1・第3土曜の読み聞かせのみだったところが、第2土曜日にスタッフによる読み聞かせを増やしていることで修正としている。出張講話は分館での実施のほか、山居バルなど図書館外での読み聞かせ会を実施しており、単に継続ではなく修正となっている。(事務局)

- ・読書手帳について、ブックスタートで読書手帳の配布をしているようだが、長年自身も学校教育に携わっていた時代から課題が多かった。それが学校配布からブックスタートでの配布に切り替わった経緯がよくわからない。文字が書けない乳幼児の読書について、手帳配布は、母親への負担が大きいのではないか。(本間委員)

→ブックスタートでの読書手帳の配布とのことだが、各保育園こども園についても必要数を聞き取り配布している。例年より配布数が大幅に増えている。チラシだけでも2000枚以上、保育園、幼稚園から希望をとり配布している。書くということについて負担となっているかは不明だが、ミライニでこういったものを配布しているということはミライニを知っていただく効果があると考え。(事務局)

- ・読書手帳についてはタイトルだけ、感想もなどいろんな書き方があるので、続けるために、楽しく取り組むには等具体的なノウハウを示すことが必要ではないか。渡すだけでは真面目な親は疲れるし、いい加減な親は貰えばなしになる。予算を使って配布するものなので、責任を持って年1回程度は現状を聞き取り、使い方について伝えなければいけないのではないか。(本間委員)

→確かに使い方のチラシなどを入れるだけでもかなり違うと思うし、昨年度は家読(うちどく)講座で読書手帳の使い方を説明している。またミライニだけではあるが、読書手帳に貼るために借りた物がシール状で出せるようになっている。書くことが難しい方にも簡単に記録を残せるので、その辺も周知していきたい。(事務局)

- ・ミライニに初めて来たときに小さい子向けの図書のコーナーが静かにしなければならぬ図書館ということではなく、とても賑やかに利用できていて驚いた。子どもたちも楽しく読める良い場所だと感じた。当方の園では平田図書センターを毎年活用している。そこでは静かにするようと言う声をかけていたのだが、ミライニは全く違うと言うことで、今後はぜひ連れてきたいと感じた。(阿部委員)

- ・読書手帳については、当方の園でも一人ひとりに配布している。初めて読書手帳ができた頃は、各家庭での関心も高く、こういうのを読んだと見せてくれていたが、近年は渡せばなしになっており、どのように対応したらいいのか悩んでいたところである。大きい子

は自分で活字を読み、関心を持っているが、小さい子はなかなか見ない。家の方が準備してみせる。そういった時にわざわざ書くかと言えば、それは難しいというのが現状。活用方法については園内でも悩んでいるところである。園からも保護者への説明不足があると思うが、まだありますかの声かけには大丈夫ですといった返答が寄せられる。(阿部委員)

→読書手帳についてはまた出てきたので、追加事項はあるか(小野会長)

→運用については小中学校とは異なり、授業や学校で活用しているものでもなく、幼少期の読書の記録は難しいところ。多忙な折、もしかしたらスマホで絵本の写真に撮って記録しているのかもしれない。読書記録のあり方については我々も勉強が必要で、今すぐ代替案は出てこないため、活用方法や運用方法については今後内部でも検討したい。(事務局)

→最近是个々人がタブレットなどを持っており、盛んに写真を撮って見せあったりもしている。デジタルについて子どもたちは鉛筆よりもおもちゃのように活用できるので、そういったデジタルでの取り組みと言うのも考えられるのでは。(小野会長)

・8月にグランドオープンし翌1月に40万人、4月に50万人を突破。事務局や指定管理者の努力の表れである。庄内支庁作成のパンフレットも観光の目立つところに置いていただきありがたい。庄内の情報発信という意味で、遊佐や鶴岡など庄内を周遊するような情報発信をしていただきありがたい。(佐藤委員)

・(R5のこととなるが)ローカルプロモーションについて「首都圏図書館と連携した地域情報発信イベント」とあるが、観光のほうの取り組みとして来訪時の情報提供のほか、最近「旅マエ、旅ナカ、旅アト」ということで各シーンでなにかできないかと考えている。酒田に来る前に、首都圏や仙台などで旅マエの情報発信をしていければというのが課題だったのだが、「北前船文化」の発信ということで、酒田に関心を高めていただけるのは非常にありがたい。こういった取り組みを考えているのか。(佐藤委員)

→昨年度吉祥寺で開催した際は偶然来た方以外に酒田に接点のある方、縁のある方を知っている方など、現地の方以外にわざわざ来てくれた方がいて、久々に酒田に帰ってみようかな、などという言葉も聞かれた。このことから、プロモーションとしては力があるものだったと感じた。今年度はまだ未確定ではあるが、酒田の友好都市の北区と連携する予定があり、図書館ではジオパークや観光などの展示を今後置く予定である。物販を伴うローカルプロモーションとしては10月開催の北区区民まつりに酒田市が出店の予定があるとのことで、ミライニも出て酒田市の名を広めることとしたい。(事務局)

・校長会で講師をお招きした際、月のホテルを手配したところ、景観の良さ、宿泊の部屋に本を持ち込めることなどミライニの良さに気づいてくれた。(石垣委員)

・市内の各小学校の見学も多いようだが、昨年度、浜田小4年が学習活動の成果を展示させてもらった。現在、本校では学びを受け身で終えるのではなく発信する、フィードバックを重視している。学区にあるミライニを、保護者や地域、観光客や市民へ発信する場と、

図書館としての学びの場と両方で活用したいと考えている。8月の校長会でもミライニを見学して終わりではなく、各校の取り組みを紹介できたらと提案したいと考えているかがか。(石垣委員)

→教育現場からのスケールの大きい活用の提案だが。(小野会長)

→ミライニとしてもうれしい提案である。これまでも作文コンクールの発表の場としてや、高校生による来館者への聞き取りやシールを貼ってもらう形での調査の場としてなど活用された事例もある。校長会に場を設けていただけるのであれば同席もしたいし、相談いただければ個別にも対応したい。また調査と発表ということでは「調べる学習コンクール」というのを来年度新たに導入したいと考えているところである。(事務局)

・企画展示について、観光客や市民も見っていてとても良い。またマルシェやツリー、飾り雛の展示、館内のコンサートやバンド演奏について、若い人が集まるきっかけになっている。(西村委員)

・子育て支援について、学生が研究している中では個人情報を入力せず利用できる子育てアプリが便利な様子。読書手帳もアマゾンのようにISBNを読み取ると本の情報が自動入力できるものがあるとおもうので、そういったものを活用できれば良いのではないか。(西村委員)

→既存のよいアプリがあれば紹介するというのもある意味図書館の新しい役割だとおもうので検討したい。(事務局)

→QRコードを駆使して子どもたちは自由に情報にアクセスする。自身も最近は本を買うよりデジタルでのレンタルや無料で読むことが多い。ましてや子どもたちならばなおのことそうだろうと考える。アクセスを子どもたちが使いやすいように作ってもらえれば、ミライニの活用にもつながるのではないか。酒田市もデジタルでの情報発信を頑張っているし、そういうアクセスのしやすさが重要である。(小野会長)

・高校生のマルシェについて、共用ロビーでの販売は暗くて販売物がよく見えない、おいしそうに見えないと感じる。オシャレな空間であるのはわかるが、ライティング、照明について配慮できないか。(西村委員)

→施設管理の問題と思われるがどうか。(小野会長)

→広場用の照明用ライトがあるので設置・活用について検討したい。(事務局)

・西村委員に質問だが、以前は大学の教科書は当たり前紙だったが、現在は電子化でどのようなになっているのか。ダウンロードするのか。(矢野委員)

→ダウンロードではなく画面上で見える形である。安価な購入とならないよう印刷できない厳しい制限がある。ただ、個人でデジタル版を購入するのは紙代等の経費がないためやや安くできるようになっている。(西村委員)

・ミライニのインスタグラムについて拝見したところ、フォロワーが約 800、投稿が約 1000 になる中で、本の紹介投稿へ平均 10、写真の投稿へ平均 50 の「いいね」がついていた。直感的に見られるから、というのもあると思うが、本の紹介はおそらく帯の文言をそのまま載せているのではないかと思われる文面。紹介者の主観が入った紹介文のほうが反応はよいのではないか。また、「読んだことがある方、これから読みたいと思った方はぜひコメントまたはいいね！してくださいね」と文末に必ずあるが、これも代わりの言葉をいれてみたら反応が違うのではないか。コンスタントな投稿はとても大事なので大変かと思うが今後も続けてほしい。投稿する人も楽しみながら感想など入れていただきたい。(矢野委員)

② 観光案内所運営について 資料 1 (説明 佐藤チーフ)

③ 管理運営事業について 資料 2 (説明 角田チーフ)

主な意見・質問事項

・庄内はどうしても冬の観光に課題があると感じていたが、11 月や 1 月が外国人の利用が多い。これはなぜなのか。在住の方々なのかもしれないが、理由など聞いていけば教えてほしい。(佐藤委員)

→確かに在住者の利用が多かったように思う。自転車を借りるだけでなく、困りごと相談のような、話を聞いてくれる場所、と思われているようにも感じる。自転車を所有していない在住外国人の利用は正確には観光目的ではないのかもしれないが、自転車で山居倉庫に行きお土産を買ったり、母国から来た友人を案内したりなどの利用などがある。欧米からの利用は少ないが、台湾等からの利用は見られる。外国語のパンフ、アプリの活用などで対応している。(事務局)

→外国からの来訪も大事だが、在住外国人が地域を観光し SNS で発信することが今重視されている。観光案内所がその役割に留まらず、新設に相談等にもものっていただいているというのは非常にありがたいことである。(佐藤委員)

・以前、駅前で困っている外国人に遭遇した際ミライニを案内することに思い及ばず直接手助けし解決した。駅についての外国人はまず世界共通の案内所マーク i (インフォメーション) を探すので、駅からミライニへの案内がそのマークでわかりやすくあってほしい。また、今回の希望は海の見える場所だったのだが、電車とバスの連絡の時間が 20 分では短い。案内所で希望を聞き出し、ちょうどよいバスに乗るには余裕がないのではないか。帰りも 30 分程度あれば、例えばコーヒーを飲んで休む、食事をする、話をするという選択も出てくる。バス時間をずらすのは難しいのは承知しているが、そうすればミライニに溜まってくれるのではないかと考える。(西村委員)

→ミライニだけで解決できる問題ではないが、同様の問題を自治会地域にある山居倉庫についても言われた。外国人が来ても、なにも書いてなくてどこに行けばいいかわからない、

と。親切なつくりになっていない、という課題がある。(小野会長)

→提案であるが、当審議会には観光物産協会の方も庄内総合支庁の観光室長もいる。事務局に市の観光部局の方がいないのは寂しい。オブザーバーでよいので入っていただければこういった施策の話が反映されるのではないか。(村形委員)

→可能であれば申し送り事項として、ぜひ伝えていただきたい。(小野会長)

→いただいた意見は担当部門に伝えて検討し、できるところは改善したい。オブザーバーとして、ということを含め勉強させていただきたい。(事務局)

(2) 令和5年度事業計画の実施状況について

(3) 下半期の事業予定について

資料3～5 (説明 小林所長、佐藤チーフ、角田チーフ)

主な意見・質問事項

・若者に本を読ませるような取り組みとして、彼らが好む作品は大人とは相いれないかもしれないが、アニメ作品になると何度も何度も足を運んだりする。若い人向けのイベントがあればSNSでの発信も期待できる。そういったものへも取り組んでほしい。(西村委員)

・スタバはコーヒー一杯で何時間でもゆっくりすごせる、といわれているが、ミライニは無料でずっとゆっくり過ごせるとても良い施設。1年目は興味関心が高いが、酒田は新しもの好き、といわれるように、飽きてしまうかもしれない。そういうことがないようにイベント等も新味を加えて続けていただきたい。また、ミライニへの投資の次は子どもたちの未来への投資をお願いしたい。(石垣委員)

・来年7月末、羽越本線100周年を迎える。こちらについても連携していただければありがたい。(佐藤委員)

→実はすでにJR側からもお話をいただいている。規模についてはどうなるか未定だが、今後JRと協議して進めていきたい。(事務局)

・絵本原画展なども美術館よりも気軽な、本も読める、飲食できる場所で見ることができるのはありがたい。今後も原画展などについて期待したい。(阿部委員)

・工夫された企画展示に感心している。個人としては読み聞かせ講座や図書専門員の先生方への講座を担当している。委員であると同時に実践者の一人として努めていきたい。(本間委員)

・多様な企画の実施に、皆、ミライニに来れば何かやっている、という認識になっているのではないか。特に若い人が自分の関心のあるものだけでなく、本の中に足を運び興味関心

が広げられるような場所にしてほしい。(村形委員)

(4) その他

・「リサイクル本の活用」とはどのようなものか。(西村委員)

→図書館からは雑誌を中心に定期的に廃棄する書籍や雑誌が出てくる。それを希望する市民に提供するもの。(事務局)

→若い人も参加しやすいようなイベントにするのであれば、個人から不要になった本をもってきてもらい、交換するようなイベントもできれば面白いのではないか。(西村委員)

→市民から足を運んでもらうイベントとして既存イベントと組み合わせることもできるかもしれない。(小野会長)

6 その他

質疑等なし。

7 閉 会

欠席の委員から寄せられた意見等

・高校の図書委員会の活動で好きな本を薦めるためのポップ作りをした。活用についてミライニに相談したところ、それを館内で展示していただけることとなった。高校生にとって過ごしやすい場、居場所として、また活動発表の場として協力いただき大変ありがたい。(齋藤委員)